

企 画 名：河北潟地域におけるラジコンヘリ散布を行わないエリアの拡大とカメムシ米のブランド化
団 体 名：NPO 法人河北潟湖沼研究所

1. 報告要旨

石川県河北潟沿岸地域において、「七豊米」栽培水田などの無農薬栽培の水田と殺虫剤・殺菌剤の空中散布を伴う慣行農法の水田との生物生息状況を比較したところ、無農薬水田では生物多様性が維持されている程度が高かった。農薬使用の水田では益虫の出現が少なく、害虫は減ったものの生き残っていた。無農薬水田では斑点米は多少見られたもののその割合は僅少であり、それによって米が食べられなくなることはなく、炊飯した場合もほとんど目立たなかった。生物調査の結果からも無農薬水田においても斑点米の原因となるカメムシ類はわずかにしか見出されず、既に空散防除の必要性のないレベルまでカメムシ類が減少していることがうかがわれた。

農家との話し合いの中で、ネオニコチノイド系農薬を使用しないエリアを作り、同時に生物多様性を保全するための取り組みを進めるための当面の方針として、ネオニコチノイド系農薬のラジコンヘリによる空中散布をおこなわないことと、畦の除草剤散布をおこなわないことを条件とする「生きもの元気米」の栽培を進めることとした。「生きもの元気米」水田では、生物調査を実施し、その結果を広く公開することで付加価値を付けることとした。こうした条件により 2 軒（2014 年田植え時点で 4 件）の農家がそれぞれ 1 筆の 2014 年度の作付けをおこなうこととなった。

先行して無農薬米「七豊米」の販売を進めており、販路開拓の協力先として、首都圏の自然保護団体等を訪問し、機関誌等でも取り組みを紹介いただいた。ロハスフェスタ in 東京において、ネオニコチノイド系農薬の問題点の展示とともに試験的な米の販売をおこない、ある程度の好評を得た。2014 年度の作付けと販売計画にあたり、先行して 12 月に実施されたエコプロダクツ展と 2 月に実施されたにじゅうまるプロジェクトにおいて、予約募集のチラシを配布した。「ひろめよう！生きもの元気米」のリーフレットを 2,000 部作成し、取り組みと調査結果を普及した。また、同様の内容のクリアファイルを 1,000 部作成した。クリアファイルは繰り返し使えるものなので宣伝効果が高いと考えられ、イベント等での効果的な活用を予定している。

2. 成果物

1. [チラシ・注文用紙「蛙いっぱい田んぼを」](#)
2. [パンフレット「ひろめよう！生きもの元気米」](#)
3. [クリアファイル「河北潟の田んぼを元気にするためには」](#)
4. 報告書「無農薬水田と慣行水田の生物相の比較調査結果及び生物多様性保全のための自主基準について」